



第61号
平成28年2月29日

発行所
宮城県伊具高等学校
同窓会
宮城県伊具郡丸森町雁歌51
TEL. 0224-72-2020
URL http://www.igokou.com
発行責任者 鈴木英晴

印刷所
佐藤印刷株式会社



支部総会を訪ねて

同窓会会長

佐藤吉市

会員の皆様には平成28年の新春を穏やかに迎えられましたこととお喜び申し上げますと共に、お元気で活躍のことと存じ、心からお喜び申し上げます。

27年度、母校からの卒業生は93名であり、同窓会に入会することになります。心から歓迎すると共に、大きく世界に飛び立ち伊具高校の名声を広めて頂きたいと希望するものです。

平成23年3月11日の東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所放射能汚染事故から、丸5年を迎えようとしています。伊具地区は内陸部であり津波の被害はなく、地震による上下水道・道路等の復旧でありましたので、大部分完成し生活には支障がなくなりつつあります。しかしながら、放射能汚染による風評被害はまだであり、交流人口が減少し、まだまだ震災前の状態には戻っていないのが現実であります。特に伊具地方は山林が多く、山の恵みである

同窓会からも会長・副会長が出席するように努めております。27年には4支部から案内を受け参加しました。ご報告してみたいと思います。

5月30日、角田支部設立総会に参加させて頂きました。26年までは角田・藤尾・枝野・桜・北郷の4支部があり、それぞれ支部活動をしておりましたが、旧角田支部の役員提案で5支部を1つにまとめ、角田市在住の会員が参加しやすい角田支部を結成する事を決定、延べ3回の5支部の合同役員会を開催し承認されました。角田支部設立総会は、35名の会員が参加されました。仙南シンケンフアクトリーが会場で、支部長には本部役員湯村副会長が就任されました。久しぶりの総会で懇親、親睦が十分に満たされ、角田・丸森の発展、母校100周年の思い等で盛会に終了しました。28年の総会は5月28日(土)11時、会場は「中華料理かんの」で開催されますので報告します。

5月31日、角田支部総会の翌日、関東支部懇親会に招待され、庄司校長・小形副会長・鈴木事務局長と私の4人で、阿武隈急行を利用、福島駅経由新幹線での日帰り参加でした。場所は上野公園内の「領松亭」で、22名の会員参加の懇親会。菊地宏支部長、遠藤副支部長の準備で行われました。久しぶりの同級生先輩との懇親で時間を忘れ、アメ横の居酒屋での二次会も楽しませてもらい帰路につきました。

8月30日は「あぶくま荘」で大張支部総会のご案内、庄司校長・菊地清明副会長・鈴木事務局長と私で4人の参加、24名の会員で会場は一杯でした。大槻孝雄支部長の開会の挨拶で始まり、大変素晴らしい、カラオケでヒートアップ、時間を忘れ親睦を深めました。

9月20日は、仙台支部役員会にご招待を受けました。鈴木事務局長と私と阿武隈急行に乗り、仙台駅構内の「郷土料理みやぎ乃」で待ち合わせ、役員の皆様6名の先輩会員と懇親させて頂きました。谷津支部長から今後の仙台支部の会員の呼びかけ等の議題が出され、今後の総会が開催されます事も期待しながら帰路につきましたが、先輩会員の接待がうまく、帰りの電車では熟睡、鈴木事務局長には迷惑をかけてしまいました。気をつけたいと思います。

27年の各支部総会には4支部に参加させて頂いたが、親睦を深めさせて頂き、母校を思う気持ちとともに、後輩学生の活躍を期待しており、伊具高等学校のますますの発展を祈っていることを実感してまいりました。ことをご報告させて頂きました。28年はどの支部からご案内を頂けるか楽しみにしています。

(農業20回・大内支部)

また、懇親会では会員相互の近況報告のほか、母校創立100周年記念事業に向けて、多くの建設的な意見が交わされる有意義な会となりました。

(事務局 鈴木英晴)

同窓会報

同窓会報

平成27年度総会報告
8月9日(日)午後2時30分
(評議員会午後1時30分)

- ◎協議事項
 - 一 平成26年度事業
 - 二 平成27年度事業計画
 - 三 役員改選について
 - 四 その他

5月30日に角田市内5支部(角田・藤尾・枝野・桜・北郷)が統合し、設立総会が行われたことについての報告があった。

◎懇親会
国民宿舎あぶくま荘午後4時
総会には34名、懇親会には28名の方にお集まりいただきました。総会では遠く関東・仙台支部からも参加していただき、これまでにない多くの皆さんに集まっていたいただきました。

また、懇親会では会員相互の近況報告のほか、母校創立100周年記念事業に向けて、多くの建設的な意見が交わされる有意義な会となりました。

(事務局 鈴木英晴)

同窓会報

同窓会報

同窓会報



(事務局 鈴木英晴)



1年を振り返って

学校長

庄司 径二

同窓会の皆様には、日頃から母校の教育活動に對しまして深いご理解と多大なるご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。昨年4月から伊具高校にお世話になり、この1年本部同窓会総会を始め、5支部を統合し新角田支部として発足しました第1回角田支部総会、関東支部総会、大張支部総会に出席させていただきました、多くの同窓会の皆様と目にかかり伊具高校の歴史など貴重なお話を伺うことができ、楽しい時間を過ごさせていただきました。その折には、佐藤吉市会長をはじめ皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

東日本大震災から5年が経過しようとしています。当時、本校では原発事故による放射能被害や風評被害に悩まされる状況でしたが、このころは風評被害も大分払拭され、以前の風光明媚な丸森町に戻りつつあります。しかし、震災の記憶は風化させることなく、これまでの教訓を学校教育に活かしていければと考えております。

さて、同窓会の皆様には、平成22年の創立90周年記念行事の実施につきましては多大なるご

支援・ご協力をいただき衷心より感謝申し上げます。月日の経つのは早いもので、平成32年度に100周年を迎えます。このことにつきましては、同窓会やPTAの皆様と相談しながら取り組んでまいりたいと思います。何とぞよろしくお願い申し上げます。

平成27年度は、①基本的な生活習慣を確立し、心身ともにバランスのとれた生活ができるよう努めさせる。また、規範意識や他人を思いやる心を持つ生徒を育成する。②基礎学力を身に付けさせる。わかる授業の推進と工夫が大切です。これを実践するため基礎基本の重要性を理解させる。③キャリア教育の推進。④活力ある学校を目指す。学校行事・地域連携による行事への積極的な参加とより一層の部活動の活性化を図る。を重点目標としてスタートしました。生徒たちには、将来一社会人として、強く逞しく歩む基礎を学び果立ってほしいと心から願っております。

今年度の重点目標の中でも「活力ある学校を目指し、学校行事・地域連携による行事への積極的な参加とより一層の部活

動の活性化」を生徒には声掛けしてきました。その効果もあり、生徒たちは熱心に学校行事や部活動はじめ諸活動に取組み、各部・団体が発表会や各種大会で日頃の練習の成果を遺憾なく発揮し活躍してくれました。

その中でも、主だったものを紹介したいと思います。運動部は、4月に野球部が春季大会において敗者復活戦から苦しい試合を勝ちあがり見事県大会出場を果たしました。仙南総体では柔道部・卓球部の上位入賞、県総体では柔道女子個人3位と頑張ってくれました。仙南新人大会では男子バスケットボール部の2位をはじめ、ソフトテニス部、剣道部、柔道部、陸上競技部の多くの上位入賞がありました。

また、文化部においては、仙南高校美術展における美育研究会長賞、電気機械部の電気自動車エコーラン大会での4輪部門優勝をはじめ、書道展覧会において特選、写真展での入選、農業クラブ競技会においては各部門で優秀賞や奨励賞をいただきました。その他、吹奏楽部や生徒会活動等多くの部活動・団体で目覚ましい活躍をしました。また、進路面におきましても、苦戦はしたものの健闘し、例年並みの成果を上げている状況であります。

ただ、これらの成果は、生徒1人ひとりの努力はもとより、

同窓会の情報はホームページから

平成22年12月より本会のホームページを開設しています。内容は会長あいさつ・役員名簿・会則をはじめ、思い出アルバムが掲載されているほか、母校の校歌や応援歌を聞くこともできます。また、事務局からのお知らせや随時掲載しています。会員皆様にはぜひアクセスしていただき皆様との交流に活用していただければと考えております。

本会ホームページには「伊具高校同窓会」で検索していただくか、下のURLを利用してアクセスしてください。

URL <http://www.igukou.com>



先生方の熱心な指導のお陰でもあり、心より敬意を表する次第です。

人間は決意し、それを実行し、継続することで、ある力を身につけていく。はじめはほんの小さなものであっても、繰り返して行っているうちに、学校時代には、誰にも想像できないような力を身につけることもある。人間の可能性は凄いなものだと思います。

平成29年度に全国高等学校総合文化祭と全国高等学校総合体育大会（南東北インターハイ）が開催されます。今年度における各種大会等での3年生の活躍は1・2年生にとっても今後の活動の励みになったものと確信

し、次年度の活躍が期待される場所です。

最後になりますが、平成32年に迎えます本校創立100周年の記念事業実施に向け、「質実剛健」「穩健着実」の校訓の示す、心身ともに強くたくましく穏やかな心を持ち合わせた生徒の育成と、先を見据えた本校教育の在り方を考え、地域社会と連携し、地域に根ざした学校づくり、社会貢献のできる人づくりをめざし努力する所存であります。同窓生の皆様におかれましては、今後とも母校発展のため温かく見守っていただき、更なるご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

お願い申し上げます。

祝受章

瑞宝単光章

向井博樹様
(農業23回・大内支部)



このたび向井博樹様におかれましては、多年にわたり陸上自衛隊自衛官として国の平和と国民の生命財産を守るために尽力され瑞宝単光章を受賞されました。暖冬とはいえず雪が降り積もった昼下がり、向井博樹さん宅をお伺いし、今回の受章につきましてお話を伺って参りました。

向井様は高校時代はバレーボール部に所属し、当時すでに卒業されていた3名の先輩の熱心な指導を受け、練習に励まれたことが一番の思い出になるそうです。当時は古い体育館しかなく、バスケットボール部と交替で使用し、また、講堂脇の外のコートでも練習を行ったとのこと、今の生徒には考えられないことだと思えます。自衛隊入隊後もバレーボールを続けていらしたそうです。

なさいました。平成14年から15年には太平洋上の東チモールにも半年間赴任されたそうです。自衛隊は初めの3か月間に基礎的な教育を受け、その後の3か月で勤務の方向性が決まるそうです。向井様の勤務された船岡の駐屯地は建設・工事関係の仕事が主力で、それに関連した様々な免許を取得されている方が多くいらっしゃいます。また、学科・実科、そして体力の試験が常に課せられます。更に、グループで受ける訓練があり、課題をこなして評価を得るもので、小さいグループからそれをいくつかまとめて行う訓練まであり、常に同レベルを維持しなければならず、良い評価を目指して訓練に励んでいらしたそうです。これらの訓練には渡河や橋を架ける訓練がありますが、演習場でそれらのことをやっても、また、もとの状態に戻さなくてはならないそうです。向井様は評価判定の仕事もされ、年間150日も家を空けなければならず、夜間の仕事も多いため睡眠の時間もほとんどないような状態だったそうです。非常に苦しい時期であったそうですが、一方でやりがいを感じられたと言っていました。

向井様は大変穏やかで誠実、勤勉な方とお見受けしました。そのお人柄が自衛隊での勤務を完遂し、今回の受章に繋がったのだと改めて感じました。長い間の責任のあるご勤務お疲れ様でした。

(事務局 鈴木英晴記)

瑞宝単光章

安達紀夫様
(商業8回・丸森支部)



自衛隊の入隊動機は、「施設、通信、車両操縦や整備等多くの職種があり、その中から自分の進む道を選択できる」「多額の資格・免許を取得することができて、就職に有利」、そして「心身を鍛練できること」でした。父は大変喜びましたが、担任の先生は体力を心配し他の就職先を指導されましたが、頑張ってやりたいとの決意から採用試験を受験し、陸上自衛官として採用されました。

高校を卒業した1週間後の昭和48年3月8日、多賀城にある教育部隊に入隊し、3か月間、新隊員として自衛官(隊)の基礎となる教育を受け、次に仙台の部隊で3か月間職種教育を受けました。初めは体力不足で戦闘訓練等で苦勞しましたが、自分自身に叱咤激励し、課外は自ら鉄棒にぶら下がったり駆け足をする等体力の向上に努め、無事に教育を修了することができ仙台にある一般部隊に配属となりました。当初、2任期(4年)の期間

で除隊し、一般の会社に就職する考えでしたが、体力もつき仕事にも自信がついてきたことからもうと専門的に知識を深めたいと思うようになり、永続勤務を目指し努力を続けました。仙台駐屯部隊で約3年間勤務してから富士山の麓にある部隊に転属となり、そこで約18年間勤務しました。行く時は独身でしたが、平成6年3月には家族を連れ宮城に戻り、以前勤務した部隊に配置となり定年退職するまで勤務しました。

自衛隊の思い出の中から1つ2つ選ぶとすれば、厳しい訓練や苦しかったものなどがあげられます。例えば、炎天下で日蔭のないところでの戦闘訓練。また、悪天候の中、下着まで雨と汗でびしょりになった野外訓練で、何もないトラップの荷台で着替えもなく震えながらも僅かな仮眠を取ったことなどがありません。良かったと思うのは、静岡にいた時、富士登山訓練で夕闇の中、満天の星空の下、山頂を目指し1歩また1歩と歩き続けて未明頃に到着、やがて霊峰富士の山頂から御来光を仰ぎ見て、眼下に広がる雲海、やがて雲の間から広大な裾野の景色を目にし、言葉に言い尽くせないほどの感動を得ました。その感動を家族にも伝えたいと思い、妻と2人の子供、更に3歳の幼児を背にして登山をしたこともありました。今考えれば少し無謀だったかもしれませんが、

卒業生の声

雁歌の里の思い出

高野 輝子

(普通2回・仙台支部)

私は昭和25年4月、新制高校の普通科へ入学しました(農蚕科・普通科・農村家庭科、84名)。学制改革から3年目、当時の学校の方針は男女併学で、選択科目の数学は普通科女子14名は男子の教室へ移動しての授業でした。学校行事やクラブ活動も先輩方の指導のもと早々に溶け込むことができました。

高校生活で特に印象に残っている事柄の中から・・・。1年次、1学期末に校内一斉学力考査があり、その結果が職員室前の廊下に貼付されると大勢集まり、自分の名を見つけては一喜一憂する姿が想い出されます。

昭和26年2月、創立30周年記念式典が盛大に挙行され、グラウンドピアノの披露と校歌の発表がありました。

2年次、7月蔵王登山。岬々温泉に1泊、早朝険しい登山道を這い登り雁戸山を眼下にご来光を仰ぎ、熊野岳から刈田岳へと好天に恵まれ四方の美しい山脈やお釜、お花畑等、素晴らしい風景に魅了されながら下山しました。私の山への憧れの原点はこの登山にあったかも知れません。3年次、9月修学旅行。今は亡き佐藤正二先生、三井節雄先

生、中山はる先生、高橋正規先生に引率され、添乗員とカメラマンも同行しました。当時は食糧事情が悪く、1人当たり8合の米を持参し、宿泊先の旅館に順々に配りながらの旅でした。ちなみに私は最後の江ノ島の宿で米を置き、身軽になった事を覚えています。

日程は、槻木駅から夜行列車で日光へ。日光見学後、上野泊。上野駅から二見ヶ浦へ直行、一泊。翌日、伊勢神宮を参拝して奈良へ。奈良では白鳳天平時代の仏像に驚嘆し、情緒豊かな古都へ2泊、満喫して大阪へ。市内見学後、夜汽車に揺られて横浜まで。鎌倉を巡り江ノ島に宿泊。最終日は上野公園で親戚や知人と面会し、上野駅から疲れた身体を夜行列車に託して槻木駅まで。この8泊9日の旅を無事に帰校できたのは、引率された先生方の並々ならぬご苦労があったものと感謝しております。

顧みまずと雁歌の里の学び舎も近代化され昔の面影はありませんが、高校生活のヒト駒、ヒト駒が懐かしく、走馬灯のように脳裏に浮かんできます。

高校時代の思い出

佐藤 辰雄

(普通8回・仙台支部)

私は、昭和31年の春に伊具農蚕高校に入学しました。

高校進学は当たり前の今日ですが、中学生当時経済的に厳しい環境にあった自分には、到底考えられない選択肢でした。

しかし卒業を間近に控えて校長先生の面接があり、「ご両親にもう一度進学を頼んでみなさい」との助言を戴き、無理とは思いつつもその旨を父に報告すると、兄との相談の上苦渋の決断で、ひとつの条件のもと進学を許可してくれたのです。

その条件とは、「親戚から離牛を1頭譲り受けるので、毎日その牛乳を搾り、町場へ運搬すること」というものでした。自分にはそれがいかに困難なことか十分理解出来なまま入学の時を迎えましたが、これが苦難の3年間の始まりでした。

毎日5時に起き、熱湯で牛の乳房を綺麗に拭き手作業で搾乳し、それを冷水で冷やす間に朝食を取り、休む間もなく20リットルの搾乳缶1本、時には2本に封入して自転車の後部荷台に括りつけ、段田原峠までの1キロ余りの急坂路を引つ張り上げ峠を越える頃には極寒の真冬でも前身汗だくで湯気が立ちのぼり、その後9キロほどの下り坂を一気に町場まで下ると、制服の表面が凍りつきました。中でも何より苦しかった思い出は、獣道同然の急坂路に雪が積もり、重い集乳缶を抱きながら自転車を引いても前輪が滑って横倒しになり殆ど前に進めず、1時間余りもの苦闘の末何とか時に辿り着いたことでした。

この3年間は勉学と共に、悪戦苦闘しながらも与えられた任務をやり遂げたことで心身が鍛えられ、これが何物にも代え難い自らの伊具高魂へと繋がります。

以後42年間の県警察への奉職と退職後の健康な毎日が続いているものと考えています。

あれから40年

中村 次男

(商業4回・大張支部)

輝かしい新年を迎えお喜び申し上げます。

「あれから40年」という歌があります。卒業後47年になつております。在学中は農業科・商業科・生活科A・生活科Bと4クラスありました。私は商業科第4回卒業生です。

校舎もほとんど建て替えられております。昔からの建物は旧体育館くらいだと思います。当時の担任の先生は3年間小野正彦先生です。現在も健康でクラス会には恩師として毎回出席していただいております。クラス会の記念写真を撮りますと先生より老けて見える人もいます。

あれから40年以上、このような少子化になるとは思ってもいませんでした。小学校の統廃合、中学校の統廃合と進んでおります。丸森町でも中学校が統廃合になっております。中学校は丸森西中学校でした。中学1年生の秋に大張中学校と耕野中学校が合併致しまして、全校生徒350人以上だったと思います。現在の丸森中学校は全校生徒で300人くらいと聞いております。

私達のクラス会も近頃は3年に1回位でやっております。同級会は本当に楽しいものです。

在学中の出来事、楽しかった事、本当に2年、3年前のように感じます。

人生80年、定年後の20年間、いかに楽しく過ごすかが人生の楽しみだと思えます。趣味に没頭する人、ボランティア活動に参加する人、地域活動に参加する人、いろいろだと思えます。90歳・100歳までの健康は人生のご褒美だと思います。私も地域おこし、地域活動に地域の皆様と一緒に頑張つて参りたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

部活動の思い出

佐藤 幸充

(商業6回・小斎支部)

私は昭和46年3月に伊具高等学校の商業科を第6回生として卒業しました。当時は農業科と商業科が男子、生活科が女子というように男女別々に分かれていました。

高校3年間で最も思い出に残っているのが部活動です。私はバスケットが好きでしたので、初めはバスケット部に入部を考えていたのですが、同級生に上手な人が沢山いたので、友達と相談して一緒に経験のなかった吹奏楽部に入部しました。

吹奏楽部は当時、丸森町内の中学校では丸籾中学校と大内中学校にあり、また、角田地区から入部した部員も合わせると経験者がとても多く、初めての私は何の楽器を担当するのか不安でした。先輩からトロンボーン

を担当するように言われ、その日から毎日遅くまでの練習が始まりました。初めは音の出し方にとっても苦労し、加えて楽譜の読み方にも四苦八苦しながら必死に練習を続けました。また、文化部でありながら、夏休みには学校で合宿があり、部員と一緒に食事を作ったり、現在の丸森物産いちば八雄館の近くにあった旅館のお風呂に歩いて行ったのが、楽しい思い出として残っています。

吹奏楽を始めて、つらいこともたくさんありましたが諦めず最後までやりきれたのは、諸先輩の優しさで顧問として指導してくださった恩師の菅田邦穂先生のおかげだと思います。記憶では先生からは厳しいことを言われたことはなく、初心者の方にも優しく丁寧に指導して頂きました。先生とは卒業後何10年と連絡を取っていませんでしたが、数年前、部活動の仲間から先生が丸森に移り住んだと聞き、仲間と一緒に久しぶりに先生と再会しました。

卒業後、私は地元の電子部品製造会社へ就職し、その後自動車部品製造会社に34年間勤務し定年退職しました。現在、縁がありまして1年半前から母校である伊具高等学校でキャリアアドバイザーとして就職支援の仕事をして頂いています。卒業から45年経った今も学校の先生方にお世話になりながら働いていることに感謝しています。

クラス会だよ

「四鳥会」同級会を 開催して

須口 力

(商業4回・金山支部)
私達は、昭和44年に卒業し、早や46年を経過しました。入学当時より「寅年生まれ」の自己主張の強い「つわもの」が1クラスに集まり、多種多様な3年を過ごしました。正担任の「小野正彦先生」には、学友一同多いに迷惑をかけたことを、今なお忘れられません。

そんな学友同士、平成27年8月、あぶくま荘にて同級会を開催し、小野先生を囲み当時を語り合い、3年後の再開を交わし、終会することが出来ました。自分の記憶では、卒業後3回目の同級会でした。会を開催するに当たり「当時の学区よりほぼ1名の世話人」が力を尽くし「現状の住まいや近況を確認」開催案内から参加可否の確認等々を行い、当日は卒業生の約半数が事前連絡通りに集い、就学当時の「悪行や当時の生き様等々」思い出話に花を咲かせました。学友は、社会人の定年期を過ぎた今も「生涯現役」を貫いている面々が多く居り、逆に病気等と闘い過ごしているメンバーの話も耳にし、皆がそれぞれの人生を精一杯生きていくことを知ることが出来ました。そして前述の通り、今後の人生「何があ

るか解らず、集まれる内に集まり、語り合おう」との思いから、3年後の再開を約し解散になりました。「自分の思いを曲げず、精一杯生き抜いている面々」と、今後も再開できる事を楽しみにしています。更には病気等で今回不参加の面々に再開出来る事を願いつつ、同級会開催の回顧録としたいと思います。

還暦から5年後の再会

蓮田 つね子

(生活20回・角田支部)
平成27年11月14・15日、飯坂温泉で5年ぶりにクラス会を開きました。

前回参加できなかった方には、参加して下さるよう強くお願いしましたが、親の介護や身体的・家庭の事情等でどうしても参加できないという返事も加わりました。参加者は20名でした。参加できない方からは、近況を報告してもらい情報交換をすることができました。サブライズで商業科・農業科の同級生(男性)5名が参加して下さって「花」(?)を添えていただきました。関東方面・仙台・丸森・角田から福島駅に集合し、飯坂線に乗って会場に向かいました。電車の中でも旅館に着いても食事も話も止まない上に笑い声も響きわたりました。学生時代の

教室の様子が走馬燈のように浮かび、懐かしく楽しいひとときでした。二次会は、カラオケで盛り上がり、散会は次の日になっていました。

2日目、宿でゆっくり過ごしましたが、それでも別れが惜しいので福島で美味しい昼食(パエリア・飲物・デザート)を皆でとり、再会を約束して解散しました。

サブライズで参加して下さった男性の皆様ありがとうございました。お陰様で楽しいクラス会になりました。



昭和59年度 商業科卒業同級会

佐藤 利治

(商業20回・丸森支部)
平成27年8月9日、「ジュネス我妻」(角田市)を会場に、2回目となる、「昭和59年度商業科卒業生同級会」を開催させて頂きましたので報告いたします。早いもので、高校を卒業し30年、歳も50目前です。

仕事では、同級生が同じ職場に。また、お客様としても、恩師の先生と同級生。私生活でも息子の部活の関係で同級生2名

との繋がりが。必然的に同級会の開催などと話が湧き上がり、D組幹事であることもあり、久しぶりの「クラス会」開催。そんな話をしてきた矢先に、職場に見覚えのある顔。やはり同級生立ち話中、C組・D組合同の「商業科での同級会」の声。C組の幹事に連絡、即座に、約10年ぶりとなる同級会開催の運びとなりました。

準備では、前回の名簿を頼りに往復はがきで連絡するも、音信不通の者もいて苦労もありましたが、恩師の先生を含め、31名からの出席の報告を頂きました。

同級会当日は、「変わったな」「全然変わらなないな」などと10年ぶりの再会に始まり、幹事の挨拶、恩師の先生3名から、高校時代に指導頂いた当時のままの口調での祝辞に、乾杯。アルコールを頂いての歓談では、高校時代の話に、卒業後の現況報告等、積もる話が沢山ありました。また、恩師との歓談では、当時の苦労話に思い出話、自分も当時を思い起こし懐かしさを感じました。

時間は早いものです。あっという間の2時間が過ぎ、閉会の挨拶。またの再会を願い一次会の閉会となりました。無論、二次会も多数の参加を頂き、歌のない「大カラオケ大会」をさせて頂きました。

また開催できればと考えていますが、次回は、ちゃんちゃんこを着ての60歳頃ですかね。

母校だより

ICTを活用した 専門高校生 地域定着促進事業

総務部長 山下由香

本年度本校は、宮城県教育委員会が主催する「ICTを活用した専門高校生地域定着促進事業」の事業校に選ばれました。

45台のPCが導入され、3年次の福祉系列の生徒が「総合的な学習の時間」の中で「高齢者と食」に関する調査・研究・実践を進めてきました。地元食材を使い、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に作って、一緒に食べて楽しむことを念頭に置いてレシピを考えました。インターネット上のレシピ公開のホームページ「クックパッド」に伊具高校として登録し、レシピを公開しています。おそらく宮城県内の高校では初となる取り組みです。ちなみに、一週間で1500件以上のアクセスがありました。そのレシピは、「かんたんカラフル春巻き」「丸森町特産ヤーコン入り八宝菜」や「さしいカブのスープ」です。地



域で生産された農産物を使い、何度も実習を繰り返して決定したメニューです。「伊具高校クックパッド」で検索し、是非一

度ご覧いただければ幸いです。また、この事業の成果発表会が1月22日に仙台市内で行われました。事業校4校の生徒や関係者はもちろん、報道関係者やその他多くの方々が見守る中、3年次の太田優香さん、櫻井紗弥佳さん、佐久間なぎささんが発表を行いました。事業の流れや取り組みの様子、今後の課題や自分の進路についての抱負を、PCを使って撮影した写真や自作の動画とともにまとめたプレゼンテーションに好評でした。その様子は翌日の河北新報ならびに河北オンラインニュースに掲載されました。発表会後のポスターセッションでも、多くの方に取り組みの様子を知っていただくことができました。来年度も継続してメニューを増やしていきたいと考えています。

柔道新人大会に 優勝して

1年 加賀山 航大

私は10月10日に行われた仙南地区新人柔道大会の男子個人90kg以下級に出場し、優勝することができました。

普段の学校練習ではトレーニングを行い、筋力をつけたり、走ることでスタミナの強化をしております。柔道の練習では打ち込み、投げ込み、寝技と立ち技の乱取りなど、基本を重視した練習を行っています。また、土曜日には他校へ行き練習試合をしています。

仙南新人大大会の私の階級では優勝候補が途中で負けてしまう

展開でした。しかし、私はこのチャンスをものにしようと思死に勝ち進み、優勝することができました。決勝戦では相手の技を返し、一本勝ちしました。日頃の練習の成果が出たと思います。また、男子団体戦でも3位入賞を果たすことができ、チームに少しでも貢献できたことがとても嬉しかったです。

仙南美育研究会会長賞を 受賞して

2年 只野 睦美

昨年の仙南美術展で、私が絵のテーマに自分の飼った猫を選び、それを描いた理由は、何年経っても飼った猫のことを忘れないようにするためでした。10数年後にはきっと、もう私の側にいないでしょう。私は歳を重ねるにつれて記憶がおぼろげになり、いつか声も姿も名前も忘れてしまおう。だから、形あるものを残したいと考え、この絵を描きました。そうすれば、思い出が刻み込まれ、なかなか忘れることなんてできないだろうと思つたからです。

私が会長賞を受賞したと知つたとき、正直信じられませんでした。すぐに先生に確認の電話を入れ、誰かと間違っていないかと何度も問いました。そして、本当に受賞したとわかった後、言葉では言い表せないくらい嬉しかったです。指やツナギに油絵の具がしみこんで落ちなくなったり、絵筆の毛がすり切れて使えなくなったりしても、限界まで絵を描き続けていたのを思い出して、努力をすれば報われるのだと改めて思いました。



たとき、正直信じられませんでした。すぐに先生に確認の電話を入れ、誰かと間違っていないかと何度も問いました。そして、本当に受賞したとわかった後、言葉では言い表せないくらい嬉しかったです。指やツナギに油絵の具がしみこんで落ちなくなったり、絵筆の毛がすり切れて使えなくなったりしても、限界まで絵を描き続けていたのを思い出して、努力をすれば報われるのだと改めて思いました。

しばらく喜んでいましたが、ふと私の中に、「なんでこんな凄い賞をとれたのだろう。」という疑問が浮かび上がってきました。本物そっくりに描きたくて、3か月間ずっと絵に向かっていた。展覧会の前日もギリギリまでねばって必死に絵を描きました。でも、仕上がった絵は毛並みの色や柄、毛の流れ、背景がまだまだ描けておらず、本物にはほど遠くて悔しかった。あの時、もっと描いておけば良かった、こうすれば良かったと、私はすごく後悔しました。

お弁当コンテストに
出品して
3年 佐々木 宵華
私たちがお弁当コンテストに出場することになったのは、先生から声をかけていただいたのがきっかけでした。元々料理が好きだったので、出品してみようと思いましたが、こんな簡単な理由で入選したので、凄く嬉しかったです。



刻み入れました。ミートボールにはミートソースを作り、トマトをすり潰しました。お弁当にデザートが入っていると嬉しい気持ちになったのを覚えていませんか？私はとても嬉しかったです。そこで、人参のカップケーキを入れてみました。見た目もかわいらしかったので、人参とはわからないかなと思いつきながら作りました。

試行錯誤しながら作ったお弁当の結果は入選でしたが、とても嬉しかったです。高校最後によい思い出ができてよかったです。このお弁当をきっかけに私も苦手を少し克服できました。冷凍食品が入っていないお弁当を、これから作っていきたいです。

ひっぽ筆まつりに

参加して

3年 佐久間なぎさ
11月23日にひっぽ筆まつりが行われました。私たち書道部に一昨年から「今年の一文字」の揮毫を実行委員会から依頼され、今年も参加しました。今年1年を振り返り、残りの期間も笑顔が絶えないようにと「笑」という漢字を書きました。一文字を大きく書くのは初めてだったのでとても緊張しましたが、心を込めて書きました。私たちはひっぽ筆まつりに参加するのは初めてだったので、歴史が感じられてとても印象深いお祭りだと思いました。そして、心と体が温まる豚汁やごはんなどたくさん料理をいただきました。とてもおいしかったです。



書道部は週に3回の活動で、日々自分の字を究めるために顧問の先生に指導してもらい、多くの賞をいただくことができました。

活動時間が限られているので集中力が大切で、自分の納得のいく作品を毎日必ず1枚は仕上げられるよう努力しています。書けば書くほど筆の使い方が上手になったり、自分にあった書体を見つけているので、部員全員部活動を楽しみながら活動してきました。学校行事などでは書道パフォーマンスというものも行います。書道パフォーマンスは部員全員で、見ている方が感動するような作品を作りあげようと、全員でどんなデザインにすればよいか考え、本番ギリギリまで打ち合わせを行い、良い作品が出来あがるよう努めてきました。私たち自身も本番までどんな作品になるかわからなかったので、見ている方だけでなく自分たち自身も楽しみにしながら書いています。書道パフォーマンスは行う機会が少なく、大きなイベントでしかできないので、とても良い思い出になりました。

3年間、他の部員とともに一生懸命楽しくがんばって活動してきたと本当に良かったと思います。

生徒の活躍

- 仙南総体卓球大会
 - 女子シングルス 第3位 和田 萌
- 仙南総体柔道大会
 - 男子個人90kg級 加賀山航大
 - 男子個人+100kg級 大槻 英人
 - 女子団体 第3位 小野 聡
- 角田市オープン卓球大会
 - 一般女子シングルス 第3位 和田 萌
- ENDO杯卓球大会
 - 一般男子ダブルス 第3位 伊藤 雅人、鈴木 章仁
 - 一般女子1部シングルス 第3位 和田 萌
 - 一般女子ダブルス 第3位 小野 美里、笹木 望帆
- 県高校総合体育大会柔道競技
 - 78kg級 第3位 福田 恋香
 - くりこま高原高校 陸上競技選手権大会
 - 男子5000m競歩 第6位 佐藤仁一郎
 - 仙南高校美術展
 - 仙南高等学校美術研究会長賞 只野 睦美
 - 全日本吹奏楽コンクール 銅賞
 - 県大会地区予選 高野山書道協会賞
 - 山本 玲、相原 千織
 - 弘法大師奉賛高野山競書大会
 - 山本 玲、相原 千織
- 電気自動車エコーラン in SUGO
 - 仙南新人柔道大会
 - 男子90kg級 第1位 加賀山航大
 - 男子+90kg級 第2位 大槻 英人
 - 男子73kg級 第2位 塚目 拓実
 - 男子団体 第3位 小野 聡
 - 仙南新人ソフトテニス大会
 - 男子個人 第3位 佐藤 旭
 - 仙南新人剣道大会
 - 男子団体 第3位 小野 聡
 - 仙南新人陸上競技大会
 - 女子800M 第2位 菅原 弘美
 - 男子 第2位
 - 宮城県民体育大会
 - 柔道競技別柔道選手権大会
 - 一般男子無段の部 優勝 目黒 拓
 - 第3位 加藤 勇次
 - 角田市民卓球大会
 - 一般女子シングルス 第3位 笹木 望帆、成美
 - 県学校農業クラブ連盟
 - 家畜審査技術競技会
 - 肉用牛の部 団体 優秀賞 齋藤 凛
 - 個人 奨励賞 齋藤 愛
 - 乳用牛の部 団体 奨励賞 渡邊 愛
 - 個人 優秀賞 森 あゆみ
 - ※来年度東北大会出場決定
 - 県高校生徒選抜書展
 - 秀作賞 相原 千織
 - 県高校書道展覧会
 - 特選 引地まどか
 - 山本 玲
- 日本童謡の書展覧会
 - 大賞 齋藤 陽奈
- 手作り自動車省燃費競技大会
 - 敢闘賞 電気機械部
- 生徒活動成果発表会
 - 展示発表の部
 - 奨励賞 電気機械部
- 県高校写真展
 - 入選 黒須 美和
 - 奨励賞 櫻井 海王
- 高校生地産地消
 - お弁当コンテスト
 - 入選 齋藤 理菜、佐々木育華、阿部 智美
- 新地町親善卓球大会
 - 一般女子ダブルス
 - 準優勝 齋藤 凛
 - 第3位 佐藤 茜、成美
 - 笹木 望帆
 - 一般女子シングルス
 - 第3位 武藤 成美
 - 第3位 鈴木 章仁
- 全国学生書道展
 - 半紙の部
 - 優秀賞 相原 千織
 - 山本 玲
 - 半切2分の1の部
 - 優秀賞 相原 千織
- 仙南地区納射会
 - 第6位 鈴木 彰太
- 県南支部中学生・高校生バドミントン選手権大会
 - 高校女子ダブルス
 - 第3位 阿部 美咲、加藤 奈菜
- 県高校美術展
 - 奨励賞 只野 睦美

支部だより

角田支部から

小形とき子

(生活20回・角田支部)

平成27年5月30日、仙南シンクンファクトリーで第1回角田支部総会を開催しました。新会則・新役員を選任が承認され、桜・枝野・北郷・藤尾・角田支部が統合して大きな支部となりました。新支部長は、前角田支部長の湯村勇様が選任され快く引き受けて頂きました。

第1回総会を記念して元伊具高校教員であり恩師の菅田邦穂先生がバイオリンの演奏会を開いて下さいました。校歌・エーデルワイス・みかんの花さく丘、その他数曲演奏してください、バイオリンのすばらしい音色でのメロディーに参加者皆うっとり聞き入りました。参加者は35名でした。



平成28年度の第2回角田支部総会は、平成28年5月28日(土)11時より角田市本町「中華料理かんの」の2階大広間で開催される予定です。内容は、会則で「宮城県伊具高等学校及び同校同窓会と連絡を図り、会員相互の親睦を厚くし、母校の発展に寄与することを目的とする。」と定

めておりますので、母校の様子や後輩達の活躍状況・同窓会の情報などを学校・同窓会事務局から来ていただいてお話をさせていただきます。その後懇親会を開催します。歴史ある伊具高校の年代を超えた同窓生が集い、学生時代のエピソードや思い出話などをしながら楽しい時間を過ごしていただきます。桜・枝野・北郷・藤尾・角田支部が統合して角田支部としてスタートしたので、角田市にお住まいの同窓生は、どなたでも参加できます。同級生・知り合いの方などをお誘いして是非ご参加下さい。お待ちしております。

以上、角田支部からの報告と連絡をさせていただきます。

関東支部懇親会を終えて

卒業50年に思う

遠藤 泰治

(商業2回・関東支部)

高校を巣立って50年がすぎた。校舎は新しくなって、グラウンドも変わった。学科も変わり教員も変わったが、私の心の中の高校は50年前から変わらない。木造校舎で、教室いっぱいはい生徒、1学年2百名の全校6百人規模と記憶している。

2015年5月31日(日)、上野公園の「韻松亭」に集った21名の同窓生が出席した。5年前、新宿で関東支部懇親会が開催され、前支部長の菊地氏から私の2年後輩の桐田氏に関東支部長を引き継いだ。警視庁勤務と記憶している。来年の春に新宿御苑で桜の花見会を開く予定

が、3月11日の東日本大震災で花見は中止。その後、桐田氏は鬼籍に入ってしまった。高校卒業50年の「隔たり」は埋めようがない程深く、長く、遠い。「韻松亭」に集った同級生21名の1分間スピーチで話された内容は重く、深く、心に響いた。集団就職で上京して工場で働いて夫と出会い結婚、出産、子育て一段落、故郷の実家には誰も住んでいない、など。

校歌を歌おうと同窓会担当の鈴木氏が起立して、「阿武隈川は……」と歌い出し、全員の合唱となった。50年ぶりの歌は出席者の心を震えさせ、腹の底から声を出し歌った。50年も歌っていない校歌を合唱できたことは「母校の力」と思い知った。

私は38年間、神奈川の高校で教員生活を送り、60歳定年まで勤めることが出来た。支部の懇親会を開くにあたり、実行委員会をつくり数回の打ち合わせを行った。何時、何処で、どのよう、出席者を増やしていくかを決め、実行委員として埼玉県の小学校の教員を現在も続けている阿部さんと、埼玉県の久喜市に住む元JRマンの本木氏の協力を得た。同窓会の取り組みを通じて自分の文章作成能力の無さと、日常の連絡



を取り合っている仲間が存在が大切であることを思い知った。今度は下学年を同窓会に誘ってみたい。

大張支部総会

平成27年8月30日、大張支部

総会が「国民宿舎あぶくま荘」にて行われ、24名が参加しました。

今回は総会前に母校見学が行われました。校舎のほか、実習棟や農場などを見学し、母校の変貌と施設の充実ぶりに驚かれた様子でした。中には再入学を奨励したいとの声も聞かれました。

総会では前年度事業・収支決算報告や今年度の事業計画・予算案が審議され、すべて承認されました。

その後の懇親会は大張支部ならではの和気藹々とした雰囲気のもと、在学当時や創立100周年の話の他に、カラオケでも盛り上がりしました。来年の支部総会は今年の倍の40人の参加を目指そうという話もできました。大張支部の固い絆が感じられた懇親会でした。

(事務局 鈴木英晴記)

仙台支部役員会

平成27年9月20日に仙台支部役員会が仙台市「郷土料理みやぎ乃」にて行われるというご案内をいただき、会長の佐藤吉市氏と事務局鈴木とで出席して参りました。当日は8名の参加となりました。数年ぶりの開催で

あり、また皆さんとお会いし、お元気なお姿を拜見できたことに喜びを感じました。

始めに支部長の谷津邦郎氏および佐藤同窓会長からあいさつをいただきました。支部長の谷津氏には例年行われる本部総会や入会式にも遠路はるばるご参加いただいたり、いつも建設的なご意見をいただき、会の発展のためにご尽力いただいているとです。また、今回初めて出席された塩竈市在住の宍戸富夫氏からもごあいさつをいただき、毎年同級会を開催し絆を深めているとお話がありました。

仙台支部は学校に近い支部と違って同窓生同士の連絡を取ることが難しく、同級生のつながりが中心です。これを解消し、本部総会にも多くの出席者を送れるようにしていきたいとの意気込みが話され、本部としても何らかの援助が必要であると感じました。また、情報交換では在学当時の思い出やご苦労された話などが、まるで昨日のことのように生き生きと話されました。

(事務局 鈴木英晴記)

編集後記

平成22年の母校創立100周年が間近に迫ってきました。母校を思う同窓生の気持ち同窓会の活動に溢れています。変わらぬご支援を今後ともよろしくお願いいたします。

同窓会事務局 鈴木英晴